

## 한통련 뉴스레터

제41호

発行:在日韓国民民主統一連合（韓統連）

〒110-0016 東京都台東区台東4丁目31-7-302 電話/FAX 03-4362-5284  
メール [chuo@korea-htr.org](mailto:chuo@korea-htr.org) ホームページ <https://chuo.korea-htr.org/>

ニュースレター配信をご希望の方はchuo@korea-htr.orgまでご連絡ください。（メールにお名前をご記入の上、件名に「韓統連ニュースレター配信希望」とお書きください）

## 정세 情勢

## ●ハリス米副大統領が訪韓、グローバル包括的戦略同盟が実動…朝鮮は弾道ミサイル発射



ハリス副大統領と握手する尹錫悦大統領

安倍晋三元首相の国葬に参列するため訪日したハリス米副大統領は9月27日、同様に訪日した韓惠洙（ハン・ドクス）首相と都内のホテルで会談し、米国の「インフレ抑制法（IRA）」によって韓国製電気自動車（EV）が不利益を受けるとの懸念に関して、「韓国側の憂慮はよく承知している」とした上で、「韓国メーカーのEV生産が米国内で始まるまでの過渡期の懸念を解消するための策について、韓国側との緊密な協議の下で引き続き模索していく」と述べた。趙賢東（チョ・ヒョンドン）外交部第1次官が会見で伝えた。

ハリス氏は29日、ソウルで尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領と会談。尹大統領は「韓米同盟は朝鮮半島を超え、グローバル同盟に発展しており、軍事同盟から経済技術同盟に拡大している」と評価。「国民の自由、安全、繁栄を守る心強い支えとして、引き続き韓米同盟を発展させていきたい」と述べた。ハリス氏は「この70年間、韓米同盟は朝鮮半島とインド太平洋、そして世界で安全保障と繁栄の核心軸となってきた」として、「訪韓の目的は両国の力を強化し、共同の努力を強固にするため」と応じた。同会談について（韓

国）大統領室は「台湾海峡と関連して平和と安定が重要だとする両国の基本的立場を再確認した」とし、米ホワイトハウスはハリス氏が「日韓関係改善の利益を強調した」とコメントした。

ハリス氏は、朝鮮との軍事境界線沿いにある非武装地帯（DMZ）を訪問し、「米国と世界は、北朝鮮（※正しくは朝鮮）がもはや脅威ではない安定した平和な朝鮮半島を追求する」と表明した。

一方、朝鮮は25、28、29、10月1日と4回、短距離弾道ミサイルを発射。韓米両軍は26～29日に東海（日本海）で原子力空母「ロナルド・レーガン」などが参加する合同海上演習を行ったのに続き、30日には韓米日が東海で朝鮮との対潜水艦戦を想定した合同演習を約5年ぶりに実施した。こうした合同演習とハリス氏の訪韓・DMZ訪問、10月1日の「国軍の日」などに朝鮮が反発しけん制したものと韓国メディアは報じた。合同演習実施と弾道ミサイル発射の応酬はその後も続いた。

韓米両政府は5月の首脳会談で、韓米同盟を「グローバル包括的戦略同盟」にグレードアップすることに合意した。尹大統領が「韓米同盟は朝鮮半島を超え、グローバル同盟に発展しており、軍事同盟から経済技術同盟に拡大している」と評価したのは、まさにこの「グローバル包括的戦略同盟」を念頭に置いての発言だ。

しかし実態はどうだろうか。韓国政府は中国政府の憂慮を横目に、米国主導の「インド太平洋経済枠組み（IPEF）」や半導体供給網「チップ4」への参加を決定し対米協力姿勢を示した。それにもかかわらず、バイデン政権はIRAによる韓国製EVへの差別措置を取り、尹政権はこれに驚き米側の善処を哀願するばかりだ。すでに米議会を通過した同法に手を入れるのは不可能で、韓

米間の各級会談で繰り返される米側の発言はリップサービスに過ぎない。

また、グローバル包括的戦略同盟の名の下に、米国政府は韓国を米国の新冷戦覇権戦略に組み込むことを既定方針としている。台湾有事への言及、韓米日合同軍事演習の実施、(韓米日軍事協力のための)韓日関係改善への圧力などはその実動であり、ハリス副大統領の訪韓目的はここにあ

る。朝鮮の反発は当然だろう。

尹大統領はグローバル包括的戦略同盟を評価している場合ではない。このままでは国益を喪失し、米国の尖兵の役割を「グローバル」に担わされだろう。無条件の対米追従をやめ、自主的な姿勢で国益を守る政策へと転換しなければならない。

## ●尹大統領の暴言騒動…メディアへの責任転嫁に「言論弾圧」と内外で批判の声



全国言論労働組合などが大統領執務室前で緊急記者会見

尹錫悦(ユン・ソンニョル)大統領は9月21日(現地時間)、米ニューヨークで開かれた感染症対策のための資金調達について協議するバイデン米大統領主催の会合に出席し、朴振(パク・ジン)外相らと一緒に退場する途上で、「議会でこの野郎どもが承認してあげなかったら、バイデンが赤っ恥だ」と話した。この発言の場面は、MBCをはじめKBS、SBS、総合編成チャンネルなど大多数の国内メディアと海外主要メディアで報道された。

この暴言が大きな問題となる中、沈黙を続けていた大統領室は15時間ぶりに釈明し、該当報道は「歪曲、つぎはぎ」と主張。大統領秘書室は報道経緯の説明を求める公文をMBCに送った。尹大統領は帰国後の29日、最初のぶらさがり会見で「事実と異なる報道で(韓米)同盟関係を棄損した」と述べた。与党「国民の力」はこの流れに加勢し、27日に「偏向組織放送真相究明タスクフォース(TF)」を構成、28日にMBCを抗議訪問し報道関連者を検察に告発した。

一方、大統領室担当の映像記者団は26日、「該当報道にどのような歪曲もない」と主張し、

JTBC・KBS・OBS・SBS・YTN放送5社記者協会は30日、「MBCへの攻撃は韓国のメディアの自由に対する威嚇」だと批判した。5社は「該当映像はMBCの単独取材ではなく、各社が共有し流通させたもの」と説明し、MBCへの標的攻撃を憂慮した。放送記者連合会、全国言論労組、韓国記者協会、韓国放送技術人連合会、韓国映像記者協会、韓国PD連合会などメディア関係の全国組織は27日、「与党の対応は言論弾圧だ」と批判し、国際記者連盟アジア太平洋支部は「メディアを脅迫し言論の自由を侵害するもの」と強調した。

こうした状況の中、第一野党「共に民主党」の朴省俊(パク・ソンジュン)報道担当は2日、記者会見で「アジアで『言論の自由』一位の韓国の位相が大統領と与党のために失墜している」とした上で、「言論弾圧を中止し国民の声に耳を傾け現状をただすべき」と指摘し、「大統領の率直な謝罪と外交惨事の責任者更迭が問題解決の始まり」と主張した。

尹大統領はメディア報道が虚偽だと主張し真相究明を求めている。外交惨事の責任を取るべきだとして、野党が国会に提出し通過させた外相解任決議も拒否した。真相究明をというなら、まずは大統領自身が問題とされている発言が何だったのかを明らかにすればよい。そして誤解と混乱を招いたことを謝罪することだ。メディアに責任を転嫁し政争を誘発することで状況を転換させようとしてはならない。大統領であっても過誤があれば謝罪すべきである。

## ●【記事紹介】金星「朝鮮半島情勢は深刻な危機へとエスカレートしている」

自主時報 2022.09.27

朝鮮の金星(キム・ソン)国連大使は26日(米国現地時間)、第77回国連総会で演説、韓米合同演習や米国政府などを強く批判した。

金大使は「(韓米合同演習は)明らかに朝鮮半島情勢を戦争のまぎわへと追い込む導火線に火をつける非常に危険な行為」だとし、「現在、朝鮮半島の安保環境は米国とその追従勢力のさら

なる対朝鮮敵視策動により、緊張激化と対決の悪循環から抜け出せず、最近ではより深刻な危険へとエスカレートしている」と指摘した。

金大使は、朝鮮が8日に採択した法令「朝鮮民主主義人民共和国の核戦力政策に対して」に関連して、「米国とその追従勢力の変わらぬ敵視政策と軍事的脅威から自らの主権と根本利益を守り、朝鮮半島と地域の平和と安全を保障するためのもう一つの正解をみいだしたもの」だとし、「米国



国連総会で演説する金星大使

は、朝鮮民主主義人民共和国が米国の敵視に抗拒し核戦力政策法令を採択せざるをえないようにした」と主張した。

そして金大使は「米国の敵視政策と軍事的恐喝が加重されるほど、われわれの力も強化される」と述べた。

金大使はジョー・バイデン大統領の21日の国連総会演説についても批判した。

金大使は「数日前にも米国大統領はまさにこの場で、いわゆる真剣で持続的な外交を開始しようとする努力にもかかわらず、朝鮮民主主義人民共和国は国連制裁を継続して露骨に違反していると述べた」と言及し、「米国が一方的につくり出した規定を守らないとして圧迫を加える、そうした国連制裁をわれわれは認めたこともないし、これか

らも認めない」と強調した。

金大使は米国に対しても批判の声をあげた。

金大使は「米国が主張する国際秩序は一方主義的で覇権主義的な米国中心の世界秩序」だとし、「米国の利益を国際法よりも優先し、他の国々がそれに服従するよう要求する帝国主義的な勢力構図」だと主張した。

続けて金大使は「米国は世界を民主主義国家と権威主義国家に分け、二者択一と陣営対決を強調している」とし、「(国際社会の)根本的な脅威は国際平和と安全の根幹を壊し、覇権的な一極世界を維持しようとする米国とその追従勢力の専横」だと述べた。

金大使は朝鮮への制裁と国連安全保障理事会についても言及した。

朝鮮への制裁については「朝鮮民主主義人民共和国だけを反対する最も極悪で強盗のような制裁」だと批判し、国連安保理については「安保理が主権国家の合法的な権利である自衛権の行使を論議すること自体が、平等と内政不干渉を明示した国連憲章の基本精神を否定する矛盾した行為」だと主張した。

原文 <http://www.jajusibo.com/60571>

## 행사예정 行事予定

### 10月

#### ハナ・マダンあまがさきプレイベント(兵庫)

日時: 10月22日(土) 午後7時~ 場所: 立花南生涯学習プラザ 内容: 「朝鮮半島の自主的統一へ向けた現状と展望について」(講師-金志永(キム・ジョン) 朝鮮新報社編集局長) 主催: ハナ・マダンあまがさき実行委員会 連絡先: 090-1242-3981

#### とめよう! 戦争への道 めざそう! アジアの平和 2022秋 関西の集い(大阪)

日時: 10月22日(土) 午後1時30分開場、1時50分開会 場所: エルシアター 内容: 「沖縄復帰50年-沖縄からの告発」(講師-新垣邦男・衆議院議員) 「大軍拡、改憲を撃つ」(講師-佐々木寛・新潟国際情報大学国際学部教授) 主催: 同実行委員会 連絡先: 050-3728-5052

#### 韓統連セミナー(大阪)

日時: 10月23日(日) 午後1時 場所: KCC会館 内容: シリーズ「ウリ現代史」第3回「1980. 5. 18光州民衆抗争」(講師-金隆司(キム・ユンサ) 韓統連大阪本部代表委員) 主催: 韓統連大阪本部 連絡先: 090-3822-5723

#### いややねんせんそう こどもまつり(大阪)

日時: 10月29日(土) 午後1時 場所: 御幸森第2公園 内容: アジアハウス子ども劇団うた、大紙芝居「白旗をかかげて」、こどものど自慢、宮古島のおどり「クィチャー」、リンボーダンスなど 主催: 同実行委員会 連絡先: 06-6717-7301

**編集後記** 東京は寒暖差が激しくなり、いよいよ秋に入ってきたようです。先日10・4宣言15周年を迎えました。共同宣言を實踐し、南北の和解と統一を一日も早く実現しようと、決意を新たにす一日となりました。(李)